ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI
DIGITAL
2016

ARTA Project

2016 SUPER GT Rd.5 FUJI

READY FOR CLIMBING OVER

「雪辱と新たなるスタート」

ARTA AUTOBACS RACING TEAM AGURI Project

ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI
DIGITAL
2016

夏の霊峰富士は山頂の冠雪も溶け、真っ青な空を背景に漆黒の勇姿を際立たせている。
雪の残る5月のそれとは全く異なる富士を見て、ARTAの面々は雪辱の思いを強くしていた。
6位でフィニッシュした8号車ARTA NSX CONCEPT-GTはもとより、
2位の55号車ARTA BMW M6 GT3の2人でさえ、表彰台に立っても笑顔はなかった。
勝てるはずのレースを落としたという思いが強かったからだ。
予選では圧倒的な速さで高木真一が55号車にポールポジションをもたらした。
しかし決勝は強い陽射しが降り注ぐ酷暑。長いストレートでパワー勝負になる富士では、
エアコンをオフにして少しでもパワーを稼がなければならない。

「気温が上がって大分違うね、これ」
首位は守ったものの、スタートしてすぐに高木はマシン挙動の変化を感じ取っていた。
「真一、なんとかごまかして走るしかないよ！ 39秒台で走ってるのは真一を含めて3台だけだから！」
エグゼクティブアドバイザーの土屋圭市が答える。
後方には2位の21号車がピタリと付けている。
「アウディ速いねぇ～」
「アウディだけが39秒9、真一とスバル、プリウスが40秒台、その後ろは41秒台だよ」
予選での速さから楽勝かと思われた55号車だったが、その実はかなりの苦戦を強いられていた。

思わず高木からは弱音も飛び出し、一瀬俊浩エンジニアがそれに応える。
「ダメだ、水温がダメ。これは時間の問題だね……、頑張るけどね……」
「了解、了解」「エンジンの水温を下げるマップは？」
「パワーを下げるしかない。
水温は下がるけどパワーダウンするから同じだと思う」
　なんとか猛攻を凌ぐものの、21号車アウディの勢いは凄まじい。
「止まって欲しいねぇ、これちょっと！」
高木が叫び声を上げ、土屋が励ますように言う。
「真一、踏ん張りどころだよ！
アウディだってセクター2～3はそんなに速くないよ！」

ARTA DIGITAL 2016

「うわぁ～、ダメかぁこれはぁ？ やられるかぁ？」
「真一、藤井（誠暢）がイライラしてるよ。真一のペースだよ」
「後ろはついてこない？ それだけが心配」
「大丈夫、大丈夫。スバル（61号車BRZ GT300）は等間隔で走ってる」
「ストレートはアウディに対してなんとか耐えられるけど、セクター3がすごく遅い。
特にプリウスコーナーと最終コーナー」
「真一、自信を持ってよ！」

55号車高木がアウディと激しいバトルを繰り広げている頃、
9番グリッドからスタートした8号車のステアリングを握る松浦孝亮は、タイヤの内圧と戦っていた。
「今もうリアタイヤがズルズルだ。ちょっとリアの内圧が上がりすぎてるね」
無線を通じてエンジニアの星学文と話し合う。
「ブレーキングでもリアがズルズルで、セクター3でもブレーキを離してからコーナーに入っていくような状態」
「タイヤがムービングしているとかそういうことではない？」
「ムービングではないね」

最終的に松浦は次のスティントで使うリアタイヤの内圧を下げることを提案し、星もそれに同意した。
「じゃあリアの内圧だけ落としていこうか。そこだけやれば、ペースは落ちないと思う。
内圧が上がるまでは最初の10周くらいかかると思うけど、そこから先は結構違うはずだから」
「了解です、では240を用意しますね」
ステアリングを引き継いだ野尻智紀は、小さなアクシデントには遭遇しながらも大きなミスもなくハイペースで走り続けた。
「今ポジション6、後ろの38号車とは9秒あるから」
「ちょっとバイブレーションあるんだけど、誰もタイヤが壊れそうとかないよね？」
「今のところ聞いてない、大丈夫だよ」

ARTA DIGITAL 2016

「ペースは安定してる、17号車や100号車と同じペースで走ってる。
ペースは悪くないし、後とのギャップも広がってるよ」
途中、ボンネットのブラケットが外れるアクシデントに遭遇したが、
大きな問題には繋がらず走行を続けることができた。
「ボンネットが浮いてる！右前が外れてるよ！」
そして5月の富士と同じく6位でフィニッシュ。
しかし上位の自滅で繰り上がっての6位だった前回とは異なり、
目の前の問題を自力で解決し、実力で勝ち獲った6位だ。
同じ6位でもその内容は格段に違った。

「お疲れ様です、ポジション6」
「今『FUEL LOW』って出てきた」
「了解、結構攻めたからね。良かった。55号車は優勝です」
　松浦も野尻の走りを褒め称え、野尻は松浦の好判断に感謝を伝えた。
「野尻、ありがとう～！ カッコ良かったよ！」
「内圧、完璧でした。攻めても1.65くらいまでしか上がらなかったから。ありがとうございました」

64 EPSON
KUMHO TIRE
SUBARU
KEIHIN REAL RACING
Panasonic
HONDA
PIT-PRO
AUTOBACS
8
zf.com/jp
クルマのことなら オートバックス
BRIDGESTONE
T-POINT
TAKATA
Coca-Cola
WORK
K.Matsuura
10

一方、21号車と予断を許さない優勝争いを繰り広げている高木は、周回遅れの処理にも苦しんでいた。
「このプリウス誰？ 絶対抜かさせないよ、こっちも水温が上がるからスリップに入れないし。ちょっとヤバいよ」
コースサイドのマーシャルポストによっては判断が異なり、
車間距離が充分でないと判断され、なかなか青旗を振ってもらえない箇所もあった。
思わず高木もエキサイトする。
「ブルーフラッグ振ってるところと降ってないところがあるんだよ！
どうしてブルーフラッグ振らないんだよ！」
「今30号車のところに言いに行ったから大丈夫、抜かされてくれると思う。
ペースは全車の中で一番速いから、このまま行こう」
そして21号車のピットインを受け、いよいよ55号車もピットへと飛び込む。

「アウディが入ったよ！」「了解、この周入ろう！」
ARTAの面々は懸命の努力で磨いてきたピットワークを見せ、
アウディに6秒の差を広げて小林崇志をコースへと送り出した。
小林も力強い言葉で返し、チームクルー全員の気持ちを代弁するかのように土屋が檄を飛ばす。
「OK、頑張ってくるよ！」
「頼むぞ、小林！」
気になるのはもちろん、ライバルの動向だ。
一瀬は毎周、55号車と21号車のラップタイムを小林に伝え続けた。
「アウディのタイム、逐一教えてね」
「了解、今ギャップは6秒です」
そのギャップは徐々に縮まっていく。
ステアリングを握る小林の肩には重責がのしかかっていく。

「結構タイヤがツラいからね」
「了解、頑張って。アウディとのギャップは4.4秒」
　限界まで攻めた走りをしても、ライバルとのギャップは縮まっていく。
そんな状況だからこそ、次々と目の前に現われる周回遅れの処理は
まさに命運を左右しかねない重要な要素だ。
小林もそれを気にしながら、ピットガレージではクルーが
他チームのところへ走って譲ってくれるよう頼みに行く。
「次に引っかかりそうなのは60号車。
次の周くらいに引っかかる」「言いに行ったよ」

「結構ツラい」
「了解、了解。あと10周、頑張って。ギャップは4秒あるから」
「向こうのペースは？」
「この周にベストを出してきて1分39秒7」
レースは終盤を迎え、ライバルも本格的にラストスパートをかけてきた。
2台の差は見る間に縮まり、無線のやりとりもみるみる逼迫していく。
土屋は小林を励ますように、力を込めて言葉を伝える。
「小林、残り7周、集中して頑張れよ！」
「ツラい！ 応援して！」
「オレたちはオマエを信じてる。頑張れ！ 踏ん張れよ、小林！」

そして、秒差で迎えたファイナルラップ。
直線の長い富士では、いつ抜かれてもおかしくない。
チームの誰もが硬く拳を握りしめ、汗を拭おうともしないで食い入るようにモニターを見詰めている。
「頑張れ！ ファイナルラップだぞ！ 踏ん張れ！」
「抜きに来る？ どう？」「絶対に抑えろよ！ ファイナルラップだぞ！」
最終コーナーを立ち上がった小林の55号車に、21号車がスリップストリームから抜け出て並びかける。
そして2台は横並びのまま、わずかに小林の方が前でチェッカードフラッグを受けた！
「小林、ありがとう。優勝だ！」土屋の声が無線で届いた。コクピットの小林の声は、涙ぐんでいた。

「もう無理だよ、こんなの！ 辛かった、ホントに。本当に辛かった……ハァ、ハァ」
「ありがとうな、よく頑張ったよ」
「こんなにツラくて長い1周があるとは思わなかった……でもみんなありがとう」
この2年で大きく強く成長した小林が、そこまでいうほどに追い込まれた激戦。
それでも小林はそれに打ち勝ち、前戦菅生のミスも帳消しにし、前回の富士の雪辱も果たした。
迅速なピットワークも、水温を上手くコントロールし
マシンを労って走った高木の好走も、全てが完璧だった。
そして8号車も、今持てる力を全て出し切って6位を手に入れた。
敗北と向き合い、一歩成長したからこそ手にすることができた勝利。
しかしこれはまだ始まりでしかない。
目指す場所は遙かな高み。ARTAの面々はそのことを胸に刻み、ここから新たなスタートを切っていくのだ。

Arai
ARTA
Project
AUTOBACS
PIT-PRO
Coca-Cola
BOSCH
T.KOBAYASHI RH+B
BRIDGESTONE
Pioneer
Castrol
EDGE
Access

ARTA DIGITAL 2016

RESULT

GT500

ARTA NSX CONCEPT-GT

松浦　孝亮 / 野尻　智紀

公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
9位	6位	36.73	1'31.560	13位

GT300

ARTA BMW M6 GT3

高木　真一 / 小林　崇志

公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
1位	1位	1'05.335	1'39.551	1位

AUTOBACS
8
AUTOBACS RACING TEAM AGURI
ARTA
Project
TOYOTA
Mobil 1
NISSAN
Coca-Cola

株式会社オートバックスセブン

ARTA Project

ARTA DIGITAL
Youtubeチャンネル

To be continued next race.....

Team ZEROBORDER

Copyright c2014 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA
Text : Mineoki YONEYA
Design and Web Creator : Akira YOSHIDA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO.,LTD